下 和 泉 小 だ よ り　3月号

令和６年２月２９日

50 周年スローガン

未来へ向かって　絆をつなごう　～笑顔満開　下和泉～

横浜市立下和泉小学校

校長　舩木　淳

残り１６日（６年生は１３日）。それぞれのクラスが成熟し、一人一人が「あるべき姿」に近づき、慌ただしさの中にも充実感と寂しさを感じる３月がやってきます。２月２８日に５０周年記念植樹を終え、子どもたちが計画した周年行事は完結しました。

学校教育はコロナ禍や GIGA スクール構想を受け、時代が令和になってからの数年間で大きく変わってきました。そして今も変革の過程にあり、その流れは今後も加速していきます。急速に変化する時代の中で、今子どもたちに求められている力は、「実社会の課題を自分の（＋自分たちの）力で探究し続けること」です。それは、従来のような知識に頼る学びではなく、知識を活用して人と関わりながら協働的に問題を解決していくものです。その学習活動の中心となるものが、低学年の生活科であり、３年生以上の総合的な学習の時間（本校では「わくわく」）です。

５０周年を迎え例年以上に学校外に目が向くことが多かった今年度、生活科やわくわくで地域や行政と関わりながら活動を続けた学習活動を紹介します。

- わき水の森や古橋の森で生まれる様々な活動を通して、森を支えている人々がいることが分かり、よりよい関わり方を実践した。また、生き物が生息するには豊かな自然環境が必要で、その環境を守ろうとする地域の人々の努力や願いに触れ、自然豊かな下和泉のまちのよさに気づくことができた。
- 「わくわく食堂」との関わりを通して、地区センターなどの公共施設の役割について知り、自分たちで育てた食材を食堂に提供したり大根パーティを楽しんだりした。
- 自分たちが普段遊んでいる身近な公園の清掃活動を通して問題を探り、下和泉の地域の一員として、大切に使っていこうという意識をもつ。町内会や行政と関わり、看板を作ったり切り株を塗り直したりして、公園を地域の憩いの場として改善した。
- ５０周年に至る下和泉小の歴史を支えてきてくださった地域の方や本校卒業生の保護者の方とのふれあいを通して、自分の「ふるさと」への思いをもち、その中で自分たちができることを考えた。
  ＊第六天神・Ｅバス・ゆめが丘開発・深谷通信隊跡地　など
- 地域の居場所である「かけカフェ」と関わることで、自分たちにできることを考え課題を設定し、調査、情報の分析・整理、具体的な経験を積み重ねたりすることを通して、地域には様々な年齢や立場の人が生活し、互いに関わり支え合うことによってそれぞれの思いを実現しようとしていることに気付いた。また、地域の福祉の充実に向けて自分自身が行動すること、自分にできることを考えて行動することがその実現に直結することが分かり、自分たちの行動の価値や集団のよさに気づくことができた。

これらの活動は、学習指導要領にうたわれている「主体的・対話的で深い学び」そのものであり、この中で私たちは「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させることを意識しながら資質能力の育成を目指しています。「個別」とても難しいことです。

どの活動も、子どもたち自身が問題をみつけ、多くの人と関わりながら解決の道筋を探り、何度も失敗しながら考えた方法で実践していきました。そこにはいつも、温かい地域と保護者の皆様のまなざしがありました。こうして節目の１年を振り返ると地域や保護者の皆様の支えがあってこそ、下和泉小が何年も安定して続いていられるのだと実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。１年間、ありがとうございました。